

さいたま市立大宮北中学校

学校だより 12月号



令和6年12月2日(月)

048(641)1214

048(641)6680(さわやか相談)

<https://omiyakita-j.saitama-city.ed.jp>

学校教育目標

『人間性豊かな
実践力のある生徒』

- ◆たしかな学力
- ◆ゆたかな心情
- ◆たくましい身体

「いい顔」でいたい

校長 小林 正美

月日の経つのは早いもので、もう師走の声を聞くところとなりました。大宮北中学校の木々も秋の深まりとともに美しく色づき、今では落葉へと移りました。今年も、保護者・地域の皆様には、校内整備奉仕作業や校区回りの落ち葉掃き活動に早朝から御協力いただきまして、誠にありがとうございます。

今学期を振り返ってみると、10月合唱祭では各クラスの団結力を見ることができました。特に3年生の歌声は、圧巻でした。また、新人体育大会では、どの部も夏からの練習の成果を発揮してくれました。私たち皆に元気を与え、忘れられない思い出を作ってくれました。

ところで、私はいつもできれば「いい顔」でいたいと思っています。映画俳優のようにはなれませんが、「いい顔」にはなれると思っています。それは、表情と心の作用には相関関係があるからです。誰でも「しまった!」「失敗した!」と思うと、少しくつむき加減になって表情が暗くなり、「楽しいこと」や「うれしいこと」があると少し胸を張って、やや上を向いて明るい笑顔になるものです。私の言う「いい顔」というのは、「少し自信を持った明るい笑顔」のことです。確かにいつも「楽しいこと」や「うれしいこと」ばかりあるわけではありませんが、そんな時こそ鏡に向かって、無理にでも「明るい笑顔」にしてみることをお勧めします。「うれしいこと」が「明るい笑顔」を作るように、「明るい笑顔」をすることで、不思議と気持ちが晴れ晴れとしてくるものです。

以前、私の先輩から、腰塚勇人(こしづかはやと)さんの「命の授業」という本を紹介されて読んだことがありました。腰塚さんは中学校の体育教師でしたが、スキーで転倒して首の骨を折り命は取り留めたものの、「一生寝たきりか、良くて車椅子」と宣告を受けたそうです。しかし、奥様やご両親、生徒たちや同僚などの応援と励ましを受けて懸命にリハビリに励み、奇跡的に回復。自分の命があらゆるものに助けられ生かされていることに気づき、その体験を「命の授業」にまとめられています。腰塚さんはその体験から次のような「誓い」を立てています。

- ◆口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。
- ◆耳は人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう。
- ◆目は人の良い所を見るために使おう。
- ◆手足は人を助けるために使おう。
- ◆心は人の痛みが分かるために使おう。
- ◆いつも笑顔でいよう、いつも感謝しよう。周りの人々の幸せを願おう。

壮絶な経験をされた腰塚さんだからこその、慈悲に満ちた言葉だと思います。しかし、私たちもできるだけこうした気持ちでいつも生徒と接したいものだと思います。そうすることで、生徒たちもきっと「いい顔」になれるはずだと思います。この一年間を振り返り、保護者・地域の皆様には、本校の教育活動に対し、多大なるご協力、ご支援いただきましたこと改めて感謝申し上げます。今年も終わろうとしています。来年も、生徒も保護者の皆様も教職員もみんなが「いい顔」でいられる年であってほしいと願っています。